

The Truth about Comfort Women

慰安婦の真実

A "comfort girl" is nothing more than a prostitute.

慰安婦は売春婦に他ならない。

UNITED STATES OFFICE OF WAR INFORMATION

Japanese Prisoner of War Interrogation Report No. 49.

米陸軍インド・ビルマ戦域所属情報部

日本軍捕虜尋問報告第49号

「史実を世界に発信する会」

Society for the dissemination of Historical Fact

The Truth about Comfort Women

慰安婦の真実（日本語版）

史実を世界に発信する会

東京都港区西新橋2-13-14(〒105-0003)

Tel 03-3519-4366 Fax 03-3519-4367

Email: moteki@sdh-fact.com

Copyright © 2014 by Society for the Dissemination of Historical Fact.

All rights reserved, including the right of reproduction in whole or in part, in any form.

Printed in Japan.

第3版（平成27年2月）

Note:

Japanese, Chinese and Korean personal names have been rendered surname first, in accordance with customs in those countries.

目次

はじめに … 4

1. 歴史事実の捏造について ヘンリー・スコット・ストー
クス … 5

2. 慰安婦問題：無視された視点 トニー・マラーノ
… 13

3. 韓国における「慰安婦」 加瀬 英明 … 18

4. グレンデール碑文のウソと慰安婦問題 茂木 弘
道 … 21

はじめに

いわゆる慰安婦問題は日本および日本人に対する侮辱であるだけでなく、韓国および韓国人にとっても侮辱的なことです。

慰安婦強制連行などというひどい話が本当であるということになると日本人は厳しい批判を受けるのは当然です。しかし、これは同時に韓国人への重大な侮辱ともなります。なぜなら、20万人もの韓国の女性が家から強制的に連れ去られたというのに、ただの一件の暴動どころか抵抗すら起こっていないのですから。こんなことは韓国人にとってこれ以上ない屈辱ではないでしょうか？世界の歴史上これほどの臆病な国民がいたことはないからです。

われわれ「史実を世界に発信する会」は、慰安婦強制連行説は全くのウソであり、捏造話に過ぎないということを **Society for the Dissemination of Historical Fact** (<http://www.sdh-fact.com>) を通じて世界に発信してまいりました。英訳した3冊の本(その中の一つは『よくわかる慰安婦問題』く西岡力東京基督教大学教授著)および10点以上の英訳論文を掲載しております。

この小冊子は、イギリス人、アメリカ人、日本人二人、計4点の論文を掲載いたしました。これを読んでいただければ、世界中の公平で開かれた考えを持つ人なら、慰安婦問題に対する正しい理解を持っていただけるものと確信する次第です。

歴史の捏造

元ニューヨーク・タイムズ東京支局長

ヘンリー・S・ストークス

いわゆる「南京大虐殺」は、昭和12(1937)年に中国の国民党政府が行ったプロパガンダが、その始まりだった。その後、昭和20年代初頭(1940年代後半)の極東国際軍事裁判で増幅され、さらにNHKや朝日新聞などが、その歴史捏造を相続した。昭和50年代後半(1980年代)には、教科書への記載がはじまり、結果的に、中国に反響が及んだ。「南京大虐殺」という歴史捏造は、いまでは共産党政府の外交、政治の道具として活用されている。これが「南京大虐殺」の歴史的な構造だ。では、「慰安婦」問題は、どうであろうか。構造は、どこか似ている。

ニューヨーク・タイムズは当時、有楽町にあった朝日新聞本社の中にオフィスを構えていた。そんなことから、「天声人語」を執筆していた朝日新聞の記者、深代惇郎とも個人的に親しかった。深代は私に、三島由紀夫について書くべきだと繰り返し訴えた。私が「三島由紀夫 死と真実」を書いている時は、チューリッヒまで訪ねて来て、激励してくれた。深代の精神的な支えがなければ、三島由紀夫について本を書くことはできなかつただろう。

深代は、慰安婦について、或いは日本軍の「性奴隷」について、何か言及していただろうか。そうは思えない。少なくとも、そんなことは問題ではなく、私の記憶にもまったくない。「慰安婦」騒動は、私がニューヨーク・タイムズを退社した後に脚光を浴びた現象と言えよう。

かつては日本人を尊敬していた韓国

英国のタイムズ紙、ニューヨーク・タイムズ紙の東京支局長だった頃、私の責任は東南アジア全域に及んだ。朝鮮半島も守備範囲だった。韓国人は、日本と日本人を尊敬しているというのが、

当時の私の印象だった。

日本が韓国を併合したのは、日露戦争での日本の勝利の五年後の明治43(1910)年だった。日本は韓国を近代化するために、膨大な労力と費用を投入した。日本の努力はたいへんなものだった。医療、警察制度、軍隊まで、今日の韓国社会の基盤をつくった。韓国人は、そうした日本の努力を受け入れた、と私は理解している。日本の統治は、欧米の植民地支配のように、人種的な優越感によるものではなかった。日本統治下で、韓国人は、まるで日本人と同じ人種、人間として処遇された。日本人と韓国人は平等で、同じ日本国民だった。日本人と韓国人は、概ね互いに親しく、協力していた。

私が韓国を取材していた頃は、みんな日本に憧れ、日本を師として韓国が発展することを望んでいた。経営者は誰もが日本を手本にしていた。サムソンの李健熙会長も、その一人だった。会長とは四十年来の友人で、私と同世代だ。会長とその父が、韓国財界を牽引してきた。二人とも早稲田大学出身だった。私が会った韓国財界のトップは、全員が日本に憧れていた。

拓殖大学教授で、評論でもベストセラーを何冊も出している呉善花さんの見方は、示唆に富む。『反日韓国には、なぜ未来がないか』と題した著書は、昨今の韓国人の反日感情のなぞを紐解いている。戦前、戦中に日本の統治を体験した世代は、日本と日本人にもっと親しみを抱いていた。日本や日本人、朝鮮半島での日本統治に、今日ほど批判的ではなかった、としている。私も同感だ。

戦前、戦中の日本統治を体験した世代への取材を通じて、呉善花さんは日本統治の四つの特色を挙げている。

- (1) 収奪によって内地を潤すという政策がとられなかったこと。
- (2) 武力的な威圧をもつての統治政策を全般的にとらなかったこと。
- (3) 文化・社会・教育の近代化を強力に推し進めたこと。

(4)本土(日本)人への同化(一体化)を目指したこと。

「日本統治下の朝鮮半島は、日本の植民地だった」と明言する点は、私と見解が異なる。しかしそれは、「欧米連合国の植民地支配と比較して、たいへん異なった特色がある」とも述べている。

教育の結果もたらされた「表現の自由なし」状況

教育現場で、韓国の学生に反日プロパガンダが教え込まれた。この認識が、私に欠けていた。李明博前大統領、朴久恵現職大統領を含む、いまの韓国人の反日感情は、そうした反日「教育」の結果だった。

呉善花は、こうした反日感情は容易に捨て去れない、とする。理由は、「韓国の反日ナショナリズムは、日本の植民地支配の歴史体験からくるものではなく、戦後教育で日本統治の歴史について捏造と虚妄を教え込まれたことによる」、と述べる。なるほど、戦前の日本について、韓国の見方と「連合国の戦勝史観」が、呼応するわけだ。

平成25(2013)年7月31日に、日本外国特派員協会で行われた記者会見の会見者は、呉善花さんだった。呉さんにお会いするのは、初めてではなかったが、私の「ホーム」グラウンドである日本外国特派員協会の記者会見でお会いするのは、初めてだった。

呉善花さんは、韓国の済州島出身。平成9(1997)年に韓国籍を捨て、平成11(1999)年に、日本人に帰化した。日本と韓国の文化比較をしたエッセイ集『スカート風の風』で、一躍有名になった。政治や歴史認識に関する洞察に満ちた論評は、日本で多くのベストセラーを生み出し、韓国で問題とされるに至った。

呉善花さんが記者会見に招かれたのは、仁川空港で入国拒否を受けたからだだった。おいの結婚式に出席するために母国を訪れたのだった。呉善花さんは、平成19(2007)年にも、ご母堂の

葬儀のためにソウルを訪れたが、入国拒否を受けた。幸い、日本当局に連絡を取ったために、入国を許された。

呉善花さんは、本を書き、講義をただけだった。反韓デモに参加したこともない。民主国家で、自分の意見を書いたり、述べたりしただけで、入国を拒否されるなどということがあろうか。私の知る限り、呉善花さんが本に書いた内容は、公平で知的な見方と事実のみである。むしろ、愛とは言わないまでも、自分の生まれ故郷である韓国への同情すら感じさせる。

そんな呉善花さんの入国を拒否する決断を下した韓国は、「表現の自由」を認めない国と言えよう。

歴史の捏造・日本軍の「性奴隷」

いまや有名な詐話師・吉田清治が『朝鮮人慰安婦と日本人』を出版したのは、昭和52(1977)年だった。根拠がない話だったが、昭和57(1982)年の9月2日に朝日新聞が「慰安婦狩りの証言」と見出しをつけて記事にした。吉田は話にさらに尾ひれをつけ、『私の戦争犯罪—朝鮮人強制連行』と題して本を出版した。「部下九人と約二百人の朝鮮人女性を強制連行し、慰安婦にした」、と吉田は書いた。それを朝日新聞が、「五万から七万の朝鮮人少女が強制的に慰安婦とされた」と、さらに誇張した。まったくの根拠なしにだ。吉田の本は平成元年(1989)年に韓国語に翻訳され、反日感情が高まった。

しかし濟州日報の女性記者だった許は、疑問を感じ濟州島で取材を行った。その結果、「本に書かれた話(慰安婦狩り)を目撃した人は一人もいなかったし、「島民はその話を『でたらめ』と一蹴し、この著述に対して強く疑問を投げかけた」のだ。(昭和64(1989)年8月14日掲載)

平成4(1992)年には歴史家の秦郁彦も濟州島を調査。産経新聞は、吉田証言を裏付ける証拠は一切なかったと報じた。

平成3(1991)年8月11日、朝日新聞は植村隆記者のスク

ープ記事を掲載した。タイトルは「元朝鮮人慰安婦、戦後半世紀重い口開く」だった。

平成4(1992)年1月11日、朝日新聞は一面トップで慰安婦問題を取り上げた。中央大学の吉見義明教授が発掘した史料だった。軍の関与を示すと報じられたが、実際は斡旋業者の違法行為を警告したもので、軍と官憲には厳しい取締りを求めている。それにも関わらず、宮沢喜一首相は2日後に謝罪を表明。さらに1月17日の韓国訪問の際には、八度も謝罪をしたのだった。それ以来、韓国政府は日本政府に対し、さらなる謝罪を要求するようになった。そしてついに、平成5(1993)年6月4日、有名な河野談話が発表された。時の内閣官房長官が、韓国人の強制連行を認め、謝罪をしたのだった。

「慰安婦」が国際的な問題となったのは、戸塚悦郎、海渡雄一という二人の弁護士が国連人権委員会に問題提起をしてからだった。「慰安婦」を「性奴隷」と位置づけたのが戸塚弁護士だった。海渡弁護士は、現職の社会民主党リーダーの福島瑞穂の実質的な夫である。国連で、日本軍の「性奴隷」と喧伝したのは、彼らだった。

平成5(1993)年7月18日、自民党は1955年以来初めて、野党となった。平成6(1994)年7月30日、自民党は、当時社会党党首だった村山富一を首相に担いで、与党に返り咲いた。これにより、財団法人女性のためのアジア平和国民基金、略称アジア女性基金が、韓国や他のアジア諸国の慰安婦に補償をするために、政府によって発足させられたのだ。

平成8(1996)年には、国連人権委員会に特別報告者に任命されたラディカ・クマラスワミによって「女性に対する暴力とその原因及び結果に関する報告書(通称クマラスワミ報告書)」が提出された。報告書は、平成3(1991)年から平成4(1992)年に出版された吉田清治証言に基づき、いわゆる慰安婦は、日本軍の「性奴隷」と決めつけた。

平成12(2000)年、朝日新聞の論説委員でフェミニストの松井やよりは、国際女性戦犯法廷というグロテスクなイベントを開催した。「法廷」は、日本軍が真珠湾を攻撃した12月8日に開廷、12月12日には、昭和天皇を死刑に処すという判決を宣言した。極東国際軍事裁判(いわゆる東京裁判)が、マッカーサーによる復讐劇であったのと同様、松井の国際女性戦犯法廷も、日本を「性奴隷制」で糾弾する偏向した催しだった。

平成18(2006)年、米国下院外交委員会で、決議759号が可決した。内容は、「日本政府は、1930年代から第二次世界大戦期のアジアや太平洋諸島で、世界に『慰安婦』として知られることになった若い女性を、性サービスの目的だけのために、組織的に強制連行した」というものだ。平成19(2007)年には、中国系米国人ロビイスト組織の支援を受けていたマイク・ホンダ下院議員が、第二次世界大戦中に強制的に若い女性を性奴隷としたとして、日本政府に謝罪を要求する下院決議121号を提出した。

今日、韓国政府は、ソウルの日本大使館前、アメリカや他の幾つかの国に「慰安婦」像を建てさせている。

個人的に私は、東京・杉並区の松浦芳子区議とお会いした。松浦区議は、日本全国三百数十名の地方議員を代表し、他の十名の議員と共に(慰安婦像の立つ)カリフォルニア州グレンデール市を訪れた。日本外国特派員協会で記者会見をされたので、私も配布資料の隅々まで、全てに目を通した。「慰安婦」像のかたわらの石碑には「私は日本軍の性奴隷でした」と刻まれている。その説明には「1932年から1945年の期間に、日本軍によって、故郷である韓国、中国、台湾、日本、フィリピン、タイ、ベトナム、マレーシア、東ティモール、そしてインドネシアから連れ去られ、強制的に性奴隷とされた二〇万人以上のアジアとオランダの女性を記憶に留めるために」と刻まれている。

国連軍は、日本の「慰安婦」制度を取り入れた

ここまで述べた日本軍の「慰安婦」制度に対する一連の糾弾は、全てそれを証明する確かな証拠を欠いている。慰安婦が日本軍の「性奴隷」だったというのはプロパガンダであり、歴史事実の捏造である。

「慰安婦」は、売春婦だった。その中には貧困によって両親に売られ、慰安所で働くことになった者もいよう。理想の職業に就いたわけでもなかろう。しかし事実はどうであったかと言えば、慰安婦たちは日本軍の「性奴隷」ではなかった。日本軍が慰安所を設けた主たる理由は二つである。

- 一、 将兵の健康への憂慮
- 二、 日本兵の強姦や暴行を防ぐ

昭和19(1944)年8月に米国戦争情報室が作成した尋問調査第49号には、慰安婦が「自由時間に日本の将兵とピクニックに行ったり、スポーツやディナーを楽しんだり」している。「故郷に自由に帰ることができた」慰安婦もいた。「酒に酔った客は、拒否することもできた」とある。兵士の月給は平均10円だったが、慰安婦の平均月収は750円だった。

興味深いのは、朝鮮動乱の時に、連合軍—つまり国連軍—が、韓国政府に運営された日本軍の「慰安婦」制度を利用したことだ。国連軍を構成したのは、ほとんどが米軍である。つまりアメリカも「慰安婦」制度を導入していたことになる。

昭和40年代前半(1960年代)に、私が韓国を訪れた時も、日本軍が使った「慰安婦」という表現が、そのまま使われていた。韓国政府は、日本軍の「慰安婦」制度をそのまま活用したのだ。

韓国の学者がまとめた「軍隊と性暴力—朝鮮半島の20世紀」という研究報告によると、朝鮮動乱勃発により、韓国に米兵相手の慰安婦が誕生し、彼女たちは「洋公女」(外人向け王女)、「洋ガルボ」(外人向け売春婦)、「国連夫人」などと呼ばれ、また米軍のための売春地区は、「基地村」と呼ばれていた。

そして慰安婦の目的を

- 一、 一般女性を保護するため
- 二、 韓国政府から米軍兵士に感謝の意を示すため
- 三、 兵士の士気高揚のため

と報告している。

韓国政府も国連も、日本軍の「慰安婦」制度を批判することなどできるのだろうか。もし「できる」と言うなら、なぜ韓国政府も国連も、日本軍の「慰安婦」制度を活用したのであろうか。



1938年英国生まれ。1961年オックスフォード大学修士課程修了後、フィナンシャル・タイムズ社入社。1964年東京支局初代支局長。一九六七年イギリスのタイムズ紙東京支局長。1978年ニューヨーク・タイムズ東京支局長を歴任。

三島由紀夫と親しかった外国人記者としても知られている。

芸術面でも、1984年ニューヨーク・タイムズ退社後ニューヨークの芸術家クリスト&ジャンヌクロードの個展「雨」を日本とアメリカで開催。1990年代には、イギリスの彫刻家ヘンリー・ムアーの娘のメアリー・ムアーとしごとを数年した。2000年以降は、著述、編集、講演と多方面で活躍している。

慰安婦問題において無視されている視点

トニー・マラーノ 日米問題評論家 / 著述家

慰安婦問題とは、「日本と韓国」という、米国にとって、戦略的に重要である二カ国間にある論争である。そのような問題に何故、米国自身がわざわざ、クビを突っ込んで、どちらかの側に立つ必要があるのか？について、疑問を持つべきである。その様な米国の態度は、一方の同盟国に対しては微笑みを与える事になるが、他方の同盟国に対しては、しかめっ面の原因になる。外交上の初歩として、この行動に対する妥当性に疑問が生じる。

もし、この問題が単純な問題で、どちらの国が正当な解釈を隠蔽しているかを証明できるとすれば、それは、おそらく、正しい側を米国が選択し、支持する事は正しい事であるだろう。この慰安婦問題に関しては、どちらが正しいかという論証が欠如している。

慰安婦達が日本帝国陸軍に仕えたという事に関しては、論争はない。論点は、「慰安婦達が、強制されたのか？」「騙されたのか？」「強要されたのか？」と言う事である。これに関して、いくつかの範囲で疑問が湧いてくる。

1 - 1944年に米国陸軍はビルマで、20名の朝鮮人慰安婦を捕虜にした。女性達は、米陸軍により尋問された。その陸軍の報告書 No.49によれば、女性達は、「高給取りの売春婦であった」と記載されている。この報告書が書かれた1944年と言えば、米国と日本の間では、まさに、激戦が繰り広げられていた時期で、米軍としては、これを利用して「日本軍の慰安婦達は強制的に売春をさせられている」と世界に向けて発信し、日本軍を叩くためのプロパガンダとして利用する事も、十分にできたはずである。しかし、米陸軍はそれをしなかった。なぜなら、その報告書によれば、それが嘘

になるからである。これによって、女性が強制的に慰安婦にさせられたという全体的な主張には、重大な疑義が生じる。この部分に関する研究が、議論の中で勘案されなければ、公平性が担保できないのではないかと？

2 - 韓国側の主張によれば、「20万人の朝鮮人やその他の女性が、慰安婦として仕えることを強要された」としている。この20万人の女性達が奴隷にされるために連れ去られている間、朝鮮人の男性達は、どこで、何をしていたのだろうか？当時の朝鮮の人口と、現在の米国の人口約3億余人を比率換算した場合は、米国人女性300万人に匹敵する。300万人の女性が米国の中から、売春をさせるために強制的に連れて行かれたとして、おとなしく従うだろうか？

3 - この間、80万人以上の朝鮮人男性が、自ら日本帝国陸軍に志願している。そして、24万人以上が、軍人または、軍属として、日本帝国軍に仕えていた。なぜ、朝鮮半島の女性達に売春を強いる帝国日本軍にそんなに多くの朝鮮人が志願するのだろうか？

4 - 韓国の現在の大統領である朴槿恵氏の実父である故・朴正熙氏(日本名:高木正雄)も、日本の陸軍士官学校へ入り、卒業後は、満州軍第8師団として、対日参戦したソ連との戦闘に参戦した。彼は、優秀であったために中尉にまで昇進した。なぜ、朴槿恵大統領の父親は、20万人の同胞の女性が性奴隷にされるのに、帝国日本軍に志願するために血書を送り、中尉になるまで、頑張って軍に仕えたのか？

因みに、朴槿恵大統領の実父である故・朴正熙は、その後に韓国の大統領になった。彼は、同胞の女性20万人を性奴隷にす

る日本帝国陸軍に仕え、優秀な成績を収め、中尉にまで昇りつめたが、どのようにしてその後、その国の大統領にまでなれたのか？

韓国によって主張されている多くの事に対して、真剣に疑問を持ち、熟考されなければならない。なぜなら、韓国人の一方的な主張を鵜呑みにするのではなく、公平さを期すためにも、日本側の解釈も同様に重きを置いて考慮されるべきだからである。これらの日本側の主張を無視する事は、価値あり信頼できる同盟国である日本と、日本国民の名誉を汚すことでもある。いずれにしても米国は、一方を軽視することで犠牲にし、もう一方に同意するとみなされるべきではない。

カリフォルニア州グレンデール市議会は、慰安婦像なる物を市立公園に建立する事で、この国際問題に自らがクビを突っ込んでいる。像の横には、大理石板に「1932年から1945年の間、帝国日本軍により性奴隷になる事を強要された」と書かれている。

2014年10月21日にグレンデール市議会は、韓国で新たな韓国人慰安婦の団体が名乗り出てきたことを知らされた。この新たな団体は、1950年から1990年までの間、韓国軍(政府)によって、在韓米国軍のために慰安婦になることを強制されたとして、韓国政府を提訴している。その同じ市議会にて、慰安婦像の建立及び、隣にある大理石の石版に書かれている文言について、日本の人々は、名誉を侮辱され、純粋な「日本叩き」であると感じている事を知らされている。

そこで、市議会に対し、その像と隣の石版は、グレンデール市による、日本人に対しての侮辱ではないことを証明し、グレンデール市は、あくまでも「全ての女性の人権を守る為のもの」という事

を示し、一貫性を担保するために、新たな慰安婦の団体に関する事も、その石版に反映させるべきであるとの提案があった。しかし、グレンデール市議会はこの提案を拒否した。拒否したことにより、以前の通り、グレンデール市は、まさに、「日本叩きをさせたい」と言う願望があるとしたか、解釈できない事となった。

米国政府と、この問題にクビを突っ込んでいる様々な地方自治体は、それぞれの議会レベルで、韓国側の見解だけを精査するのではなく、日本側の見解も精査すべきである。一方だけの肩を持ち、もう一方を無視している米国政府と地方自治体は、日本と米国と韓国の同盟関係に亀裂を作っている。この亀裂は、アジア地域における米国の敵に対して利する事となり、さらにその地域での敵対的操作を加速させることになる。

慰安婦問題に関する議会決議と慰安婦像や慰安婦碑は、史実を反映しておらず、その様な解釈の歴史は、感情を取り除けば、バラバラに崩れ落ちてしまう。米国政府は、この問題に関するプロパガンダの背景にある動機に疑問を持つことくらいは、できるはずである。慰安婦問題で、日本を邪悪な要因と見なす方程式を促進している傍らで、韓国人達は、「日本海」を「東海」と改称する事をも促進している。ここにある妄想が理解できないのであろうか？米国は、妄想に同調することにより価値あり信用できる同盟国を犠牲にし売るべきではない。

米国政府と一部の地方自治体が同一に、一方の同盟国の側に立ち同調することは、もう一方の同盟国を苛立たせることになる。もし、米国政府と地方自治体がこの論争に関わらなければ、良識的な同盟国はそれに同意し、もう一方の非常識な同盟国はそれに対して、同意しないであろう。中立性を保つことの重要性においては、日韓両国は、合理的で、理性的な同盟国であるというこ

とに疑いをはさむ余地はない。両国も、なぜ合衆国や地方自治体がこの件に関して沈黙しているかを理解は出来なくても、同意はするだろう。合衆国や地方自治体による中立は、同盟国間の摩擦を最小限度に抑える方法と言える。



1949年2月19日、米国コネチカット州生まれのイタリア系米国人。ニューヨーク州ブルックリン地区に30年、その後、テキサス州ダラスに移り住む。

米国大手電話会社AT&Tを定年退職後、米国メディアのプロパガンダを批判するためにYouTubeのチャンネルPropagandaBusterを立ち上げ、

既に1,000本を超える動画を配信している。

また、日本では、作家・評論家として、2010年より5冊の本を執筆。夕刊フジ、週刊アサヒ芸能などに毎週連載を行っているほか、様々な雑誌や新聞等に寄稿している。2011年より毎年、日本での講演会を行っており、2014年には、北海道から沖縄まで9カ所、計10回の講演会を開催し、全ての会場で超満員の観客を動員している。慰安婦問題では国連欧州本部まで日本の調査団とともに出向き、国連で行われている慰安婦プロパガンダを暴露。日本同様に捕鯨を行っているフェロー諸島にも、日本の友人達とともに出向き、シー・シェパードと直接対峙するなど、精力的な活動を行っている。35年前より、テキサス州に住んでいることから、日本では、テキサス親父 Texas Daddy という愛称で親しまれている。

韓国における「慰安婦」

加瀬英明 「史実を世界に発信する会」代表

橋下大阪市長の「慰安婦」をめぐる発言が、内外で大きな波紋をつくった。いつものように、韓国の反日世論が湧き立った。

ことあるごとに、日本に悪態について快感に浸たる。なぜ、韓国はこのようにいじけているのかと思う。

だが、困ったことに、アメリカでも日本の慰安婦問題となると、中国、韓国の多年にわたる工作によって、日本が先の大戦中に無辜のアジア女性を拉致して、軍の「性奴隷」となるのを強いたと、ひろく信じられている。

河野官房長官による慰安婦についての談話、日本が前大戦に当たってアジアを侵略したという村山首相談話を否定することには、アメリカの国内世論から強い反発を招くことになるので、オバマ政権も日本のなかでそのような動きがあることに、反撥している。

日本の官憲が人攫いのように、女性の意志に抗って慰安婦となることを強制したようなことは、ありえない。

慰安婦であれ、前大戦で侵略を働いたというのであれ、南京事件であれ、事実無根であるが、民主主義国で一国の政府がまったく虚偽の事実を、公的に認めるような奇想天外なことは、ありえないことだ。そのうえ、謝罪している。全世界が事実だと信じ込んでいるのも、当然だ。

それだけに、河野、村山談話の罪は重い。日本が国家の安全を守るのに当たって、日本の汚名を清ぐのを急がねばならない。日本の名誉を回復することが、日本の価値を高め、日本外交に力を与えることになる。

どの国であっても、軍隊が外地で戦う場合には、将兵が性病にかかることがないように、兵士の性欲の処理にかかわって、管理するものだ。日本軍も例外ではなかった。日本軍の場合には、売春宿を経営する業者に女性を募らせて、慰安所を設けた。

いったい、韓国には、軍人のための慰安婦がいなかったのだろうか？

私は日韓国交樹立の前年に、韓国をジャーナリストとして訪れてから、足繁く通ったが、『東亜日報』^{ドンアイルボ}をはじめとする韓国の主要新聞に、米軍のための「慰安婦」^{ウイアンプ}を募集する広告を、よく目にした。「慰安婦」という言葉は、旧日本時代から引き継いでいた。

韓国における「慰安婦」について、韓国の学者グループによる研究があるが、二年前に『軍隊と性暴力』(現代史料出版)¹として訳出刊行された。

同書は、「慰安婦」が朝鮮戦争の勃発から、国連軍(米軍)と韓国政府がかかわって管理されたことを、克明に検証している。韓国では、米兵相手の「慰安婦」を、「洋公主」(外人向け王女)、^{ヤン}「洋ガルボ」(外人向け売春婦)、^{ヤン}「国連婦人」、^{ヤン}「国連婦人」と呼んでいたという。米軍向けの売春地区は、「基地村」と呼ばれた。「慰安婦」の「目的は、第一に一般女性を保護するため、第二に韓国政府から米軍兵士に感謝の意を示すため、第三に兵士の士気高揚」のためと、述べている。

韓国軍にも、慰安婦がいた。「『慰安婦』として働くことになった女性たちは、『自発的動機』がほとんどなかった。」「ある日、韓国軍情報機関員たちにより拉致され、一日で韓国軍『慰安婦』へと転落した。」

「国家の立場からみれば公娼であっても、女性たちの立場からみれば、韓国軍『慰安婦』制度はあくまでも軍による性奴隷制度

1 『軍隊と性暴力—朝鮮半島の20世紀』

(宋玉連・金榮編著)(現代資料出版/東京/2010年)

であり、女性自身は性奴隷であった」と、論じている。

二〇〇二年に韓国陸軍の「慰安婦」についての研究が発表された直後に、「韓国の国防部資料室にあった韓国軍『慰安婦』関連資料の閲覧が禁止された。(略)『日本軍「慰安婦」問題でもないのに……』と言葉を濁らせた」という。

ソウルの国会と、アメリカ大使館前にも、慰安婦像を設置することになるのだろうか。



昭和11年東京生まれ。慶應大学経済学部、エール大学、コロンビア大学に学ぶ。

「ブリタニカ国際大百科事典」初代編集長を経て、現在、評論を執筆。シカゴ大学、ペンシルバニア大学などより安全保障問題の講師として招かれるなど、海外での講演活動も多い。

昭和52年3月福田首相の首相特別顧問、昭和57年中曽根首相の首相特別顧問として訪米。福田、大平、鈴木内閣で園田外相の顧問として訪米。

映画『プライド・運命のとき瞬間』、『ムルデカ 17805』製作委員会代表

共著を含め100冊を超える著書がある。Albert Axell との英文の共著“Kamikaze Japan's Suicide Gods,” (Longman)がある。

グレンデール碑文のウソと慰安婦問題 「史実を世界に発信する会」事務局長 茂木弘道

グレンデールの石碑の文章(日本語訳)は下記の通りです。



「私は日本軍の性奴隷でした」
* 掻き乱された髪は、日本帝国軍によって家から強引に連れ去られている少女を象徴しています。
* 握りこぶしは、正義の回復のための堅

い決意を表しています。

* 裸足でかかとの着いていない足は、冷たく無理解な世界によってずっと見捨てられていることを表しています。

* 少女の肩に止まった鳥は、私たちと亡くなった犠牲者との絆を象徴しています。

* 空いている椅子は、正義をいまだ証言していない高齢で死を迎えている生存者を象徴しています。

* 少女の影はその少女と年老いたお婆さんで、無言のまま費やされた時間の経過を象徴しています。

* 影の中の蝶は、犠牲者がある日彼らの謝罪を受け取って甦るかもしれないという希望を表現しています。

平和記念碑

1932年から1945年の間に日本帝国軍によって強制的に性奴隷状態にされた200,000人以上の韓国・中国・台湾・日本・フィ

リピン・タイ・ベトナム・マレーシア・東チモール・インドネシアの故郷から移送されたアジアとオランダの女性を記念して。

そして、日本政府がこれらの犯罪の歴史的責任を受け入れることを勧告する、2007年7月30日の合衆国議会による下院決議121号の通過と、2012年7月30日のグランデル市による「慰安婦の日」の宣言を祝して。

この不当な人権侵害が決して繰り返されないことが、私たちの偽らざる願いです。

2013年7月30日

ここに書かれていることは100%ウソと言い切れる大ウソです。

第1に、日本帝国陸軍に家から強引に連れされた女性は、1人もいません。ゼロです。なぜなら、日本軍にそんなことをする権限もなく、そんな女衞の行う仕事をするほど暇で、規律のない軍隊ではありませんでした。そんなことをしたら、戦前といえども大社会問題となってしまいます。勿論それを目撃した韓国人は一人もいません。20万人が連行された、とここに書かれていますが、たった一人の韓国人もそれを目撃したという証言をした人がいない、という事実を何故不思議とも思わずこんなウソを恥ずかしげもなく書くのでしょうか。慰安婦問題では、怪しげな証言なるものが多いのですが、それでも少女が連行されていくのを目撃したと証言した韓国人は一人もいないのです。

元慰安婦の人が証言しているではないか、という方がいるかもしれません。しかし実はこれまで証言した慰安婦の方で、ただの1人も軍もしくは官憲に強制されたことをまともに証明している人はいないのです。安兼直ソウル大学教授が中心になってまとめた元慰安婦の聞き取り調査『証言集1』には、強制連行されたというケースが4件でありますが、どれも当時の社会的な背景と常識と

整合性がなく不自然な証言で、全く信頼性に乏しいものです。²そのほかのものは戦地へ行き、慰安所でつらい目に会ったことはいっていますが、軍に誘われたこともなければ、頼まれたこともありませんし、いわんや強制されたなどということも言っていません。戦地での話も実は、どれだけ根拠のある話なのかもあやふやなものです。いずれにしても軍に命令もされず、依頼もされずに当時広く行われていた売春という仕事に出かけて行ったというのが真相です。

強制連行したという唯一の論拠となっていたのは、吉田清治が1983年に書いた『私の戦争犯罪』³で、これをもとに朝日新聞などが大々的に報じました。しかしそれは全くのウソの本でした。ウソであることは、吉田が慰安婦狩りをしたという済州島の新聞記者が郷土史家と徹底調査した結果として、1989年8月14日には新聞に掲載されていました。次頁の済州日報の記事のコピーとその日本語訳をご覧ください。

慰安婦狩りを行ったという現場の現地の新聞が郷土史家と共同で調査して、そのようなことは全くなかった、ということも報じているにもかかわらず、朝日新聞はそれから25年もそれを無視して吉田のウソを否定せず、さも事実であるかの前提で慰安婦報道をしてきたのでした。韓国政府も自国の地元新聞が明確に吉田のウソを否定しているのに、それを完全に無視して朝日新聞という日本の「権威」の言うことをうのみにし、それに基づき日本非難をしてきました。朝日新聞の言っていることが虚偽と分った今、韓国政府は大反省し、済州新聞に対して、また日本に対して謝罪するべきではないでしょうか。

² 『よくわかる慰安婦問題』(西岡力)(思草社)(2007), p.96-97

³ 『私の戦争犯罪 朝鮮人強制連行』(吉田清治)(三一書房)(1983)

第2に、私は「慰安婦問題の正しい理解のために」(日本語版は、「史実を世界に発信する会」の日本語サイト <http://hassin.org/01/wp-content/uploads/Guide.pdf>、

英文版は ” Guide to Comfort Women ” http://www.sdh-fact.com/CL02_1/113_S4.pdf)に書きましたが、戦前日本では(当時ほとんどの国でも)売春は合法的であり、日本中いたるところに妓楼などの売春施設がありました。それと同じものを戦地にも開設しただけであり、なにも軍が特別な不法なことをしたわけでは全くありません。当時日本国内ではこういう施設を利用する事ができたのに、海外の戦地に行くとうような施設がないのは、兵士に対する差別待遇ということになります。従って、慰安所を開設したことは公平の原則に基づいていたのであり、これを非難するのは見当はずれです。

第3に、そもそも売春は、醜業と当時よばれたように望ましい仕事とは思われていませんでしたが、一般の仕事よりもかなり高収入の仕事でした。今でも同じです。従って、貧しくこれという技能のない女性にとって、一つの良い収入を得る道でした。今でも同じです。それを女性の人権問題として糾弾するのは、一つの考えとしてはあり得るでしょうが、決して普遍的な正義ということではできません。2011年5月17日には韓国のソウルで売春婦の大きなデモがありました。「われわれの売春の権利を奪うのか」という抗議のデモです。(次頁の **TIME PHOTO** の写真をご覧ください。)

売春は女性の人権問題と信じ込んでいる人たちは、この売春婦の声にどう答えるのでしょうか？既に売春が法的に禁止されている現在においても売春婦がこういう主張をしているのです。売春が合法であった70年も前の時代の「慰安所」を女性の人権問題として日本軍を糾弾するという「異常性」は一体なんなのでしょうか？

慰安婦を非難する日本のいわゆる人権派の人たちは、明らかに深刻な人権侵害事件であり、今なおその被害者が存在してい



LEE JIN-MAN / AP

◀ BACK NEXT ▶

Flammable

In their underwear and covered in body paint, some of the protesters doused themselves in flammable liquid during the demonstration in an attempt to set themselves on fire, May 17, 2011.

South Korea Sex Workers on Strike

る拉致問題にたいして、一向に抗議もしなければ、救出のための活動も行ってきませんでした。「異常性」の正体は此処にあり、ということになります。彼らは、本当に「人権」を守ろうとしているのではなく、要するに日本悪者論に基づく、日本非難を「人権」の名のもとで行っているにすぎない、と結論付けざるを得ません。オバマ、ヒラリー等アメリカの人権論者もこの「異常性」に早く気づくべきです。

第4に、戦地という危険性がある場所での仕事なので、一般的な売春施設よりかなり高収入が期待できました。「慰安婦問題の正しい理解のために」で紹介しました通り、新聞広告では、月300円というのがほぼ相場でした。しかし、実際の収入はそれより高かったようで、米軍尋問調書 US Office of War Information

によると彼女たちの月平均の収入は、750円と書かれています。

それどころか、文玉珠という元慰安婦は、ビルマで慰安婦として働いていたときに郵便貯金をしていたが、その支払いがなされていないと提訴しました。別に日本軍が支払わなかったのではなく、通帳を無くしてしまったから支払われなかったのです。調べたところ下関郵便局に原簿が残っていて、彼女の貯金残高は2万6千百15円と分りました。2年半の間にこれだけの貯金ができ、ということは彼女は月に少なくとも1000円稼いでいたということです。

上等兵の月給が、月10円でしたから、その3倍ではなく、30倍、75倍、100倍という超高収入でした。従って、こういう高収入を目的に働きに行く女性はいくらもいたのであって、なにも強制的に連れて行く必要など「皆無」でした。

第5に、こうした当時の常識を正確に反映して、米軍尋問調書 **US Office of War Information No. 49⁴**(ビルマミートキナで捕虜とした20人の韓国人慰安婦の聞き取り調査)では、**A comfort girl is nothing more than prostitute or professional camp follower.** と明確に記録されています。前掲のコピーの赤字部分をご覧ください。なにも慰安婦＝戦場の売春婦は当時珍しいものでも何でもなかったのです。

なお「慰安婦問題の正しい理解のために」にも書きましたが、売春は人類最古の職業でしたが、何も何十年も昔のことではなく、ご存知のように、今も広汎に行われています。上記3、で述べましたように2011年5月に行われた韓国の売春婦が「われわれの売春の権利を奪うのか」と抗議デモをしました。韓国の女性は現在アメリカで売春をしている海外女性のうちで最も数が多いと伝えられています。日本にもたくさん来て売春をやっています。こういう人

⁴ 原文の全文のコピー及び日本語訳は、

英文：http://www.sdh-fact.com/CL02_4/8_S1.pdf

日本語訳：<http://hassin.org/01/wp-content/uploads/No49.pdf>

1-5
440000
Classified by *100/100*

UNITED STATES OFFICE OF WAR INFORMATION
Psychological Warfare Team
Attached to U.S. Army Forces India-Burma Theater.
APO 689

Japanese Prisoner of War Interrogation Report No. 49. Place interrogated: Lode Stockade
Date interrogated: Aug. 20 - Sept. 10, 1944
Date of Report: October 1, 1944
By: T/S Alex Yorichi

Prisoners: 20 Korean Comfort Girls
Date of Capture: August 10, 1944
Date of Arrival at Stockade: August 15, 1944

~~SECRET~~

PREFACE:

This report is based on the information obtained from the interrogation of twenty Korean "comfort girls" and two Japanese civilians captured around the tenth of August, 1944 in the mopping up operations after the fall of Myitkyina in Burma.

The report shows how the Japanese recruited these Korean "comfort girls", the conditions under which they lived and worked, their relations with and reaction to the Japanese soldier, and their understanding of the military situation.

A "comfort girl" is nothing more than a prostitute or "professional camp follower" attached to the Japanese Army for the benefit of the soldiers. The word "comfort girl" is peculiar to the Japanese. Other reports show the "comfort girls" have been found wherever it was necessary for the Japanese Army to fight. This report however deals only with the Korean "comfort girls" recruited by the Japanese and attached to their Army in Burma. The Japanese are reported to have shipped some 703 of these girls to Burma in 1942.

RECRUITING:

Early in May of 1942 Japanese agents arrived in Korea for the purpose of enlisting Korean girls for "comfort service" in newly conquered Japanese territories in Southeast Asia. The nature of this "service" was not specified but it was assumed to be work connected with visiting the wounded in hospitals, rolling bandages, and generally making the soldiers happy. The inducement used by these agents was plenty of money, an opportunity to pay off the family debts, easy work, and the prospect of a new life in a new land - Singapore. On the basis of these false representations many girls enlisted for overseas duty and were rewarded with an advance of a few hundred yen.

The majority of the girls were ignorant and uneducated, although a few had been connected with "oldest profession on earth" before. The contract they signed bound them to Army regulations and to work for the "house master" for a period of from six months to a year depending on the family debt for which they were advanced.

DECLASSIFIED BY *100*
ACS DECLASSIFICATION TRAINING

DATE *1973*

~~SECRET~~
ND-97
①

たちも、家庭の事情その他の理由があるからやっているのでしょうが、こうして日本に来て売春をやったあげく、何かつらい目に会ったということで、謝罪や賠償を要求できるのでしょうか？

現在、元慰安婦や韓国政府が謝罪や賠償を日本政府に要求していますが、日本政府は強制はなかったというもののお詫びをしています。つらい目に会おうがどうしようが、それは個人もしくは親の責任であり、日本政府、又は軍の責任ではないのに何で「謝罪」しなければならないのでしょうか。謝罪などすれば、世界中のだれもが、日本軍はきっと悪いこと、不当なことをやったんだろと思うでしょう。日本は良心的だなどと考えてくれる国がいるなどと考えるとしたら、見当はずれも甚だしいでしょう。謝罪をしているということが、問題の本質を見失わせ、日本を貶め苦境に追い込む根本原因となっています。

全くの虚構の上に成り立っていた、「慰安婦問題」は朝日新聞が誤報を認めたことで、根本的に崩壊したのです。本質的には吉田清治のウソだけが、慰安婦強制連行の根拠でした。これがウソと地元の済州日報が1989年に調査の結果明らかにした時から、この吉田のウソを認めず、慰安婦強制連行説を主張し続けた朝日新聞は、誤報ではなく、捏造・歪曲報道をしてきたということです。

日本の言論界、知識人の世界で圧倒的な権威をもっていた朝日新聞のこの捏造報道に実は日本政府、政治家も大きな影響を受けていたがゆえに、見当外れの「謝罪」を行うことになり、河野談話というウソだらけの声明を出すことになったのです。さらに韓国政府も、日本非難のベースは朝日新聞報道でした。自国の現地の新聞である済州新聞が100%ウソと明らかにしているのを全く無視してウソ報道に乗ってしまうという恥ずべきことを行ったのが、韓国政府でした。

この100%のウソ情報をもとに慰安婦像をソウルの日本大使館前に立て、そして全くのウソの碑文とともに、グレンデル市に慰

安婦像を建てた、というのが事の真相です。こんなウソをアメリカで言ってしまった韓国人は、文字通り謝罪して、この碑の撤去を行うべきです。またまともな調査を行わず、地方議員を含む多くの良心的な日本人の意見も聞きいれず、この像建設を容認したグレンデール市は、この過ちを謝罪し、直ちに碑の撤去を行うべきです。



昭和16年東京都生れ。東京大学経済学部卒業。富士電機、国際羊毛事務局を経て、平成2年(株)世界出版を設立。日本の漫画を英語に対訳した日本語学習／日本情報誌「漫画人」をアメリカ Mangajin, Inc. と協力して発刊。「史実を世界に発信する会」(代表:加瀬英明)事務局長。著書:『文科省が英語を壊す』(中公新書ラクレ)、『「放射能」を怖がるな』(日新報道)他。訳書『「太平洋戦争」は無謀な戦争だったのか』(ジェームス・ウッド著)(WAC)他。